

「国際交流推進委員会」

1. 構成員

1) 委員

委員長：宮本千津子（東京医療保健大学）

委 員：池田真理（東京女子医科大学）、上野里絵（東京医科大学）、落合亮太（横浜市立大学）、
グレッジ美鈴（神戸市看護大学）、志田京子（大阪府立大学）、
寺本千恵（広島大学大学院）、深堀浩樹（慶應義塾大学）、増澤祐子（東京医療保健大学）

2) 協力者

なし

2. 趣旨

本委員会の趣旨は、関連する国際組織と連携を取りながら、日本国内の看護系大学のグローバル化を促進・支援することである。具体的な活動目標は以下である。

- 1) 看護高等教育における国際活動・国際交流の積極的な推進
- 2) EAFONS Executive Committee への参加と大会開催支援等を通じた連携の促進
- 3) 看護系大学における国際的な教育・研究活動の推進・支援

3. 活動経過

- 1) 今年度の委員会は計 4 回開催され、委員会主旨にそった活動が実施された。

【第 1 回委員会】

- ・日時：9 月 18 日（金）17:00～19:00 Zoom 会議
- ・内容：①委員会主旨および活動経過と今年度活動方針説明
②第 24 回 EAFONS 開催に向けての連絡調整状況説明
③WEB 国際交流推進セミナー開催と主旨、概要検討

【第 2 回委員会】

- ・日時：11 月 5 日（木）15:00～17:00 Zoom 会議
- ・内容：①WEB 国際交流推進セミナー参加申し込み状況の確認、その他準備状況確認
②第 24 回 EAFONS 開催準備状況報告および会員への周知状況

【第 3 回委員会】

- ・日時：1 月 27 日（水）17:00～19:00 Zoom 会議
- ・内容：①WEB 国際交流推進セミナー周知および開催方法・準備
②第 24 回 EAFONS 開催に向けての連絡調整、参加者支援について
③WEB 国際交流推進セミナー開催について

【第 4 回委員会】

- ・日時：2 月 20 日（土）15:30～16:30（セミナー終了後）Zoom 会議
- ・内容：①WEB 国際交流推進セミナー実施評価
②次年度課題の検討

- 2) East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS) Executive Committee への参加と連携促進
昨年度に引き続き EAFONS EC に参加し連携をはかった。COVID-19 感染拡大を受け、第 24 回大会は WEB による開催（予定）となったが、開催国であるフィリピンにおける活動事情が悪化しており大会準備に遅れが出て、会員校への周知も遅延した。今後、EAFONS への参加者を増やすとともに、

より効果的な大会運営とするためにも、次年度大会の開催方法をはじめ、ICTを用いた連携方法を探索していく必要がある。

【Executive Committee Meeting への参加】

- ・2020年第2回会議（7月29日）、2021年第1回会議（3月2日）に池田委員が参加。
- ・EAFONS ECのConvenor選挙方法および運営課題、第24回EAFONS（フィリピン）開催プログラムと活動計画、次期Convenor選挙結果の確認、等が行われた。

【第24回EAFONS開催に関する会員への周知と参加促進】

- ・第24回大会の開催と演題募集についてホームページおよび会員校へのメールにて、また登録期間の延長について会員校へのメールにて周知を行った。

3) 看護学教育における国際交流・連携に関する研修会の実施

昨年度企画しCOVID-19感染拡大のため中止とした研修会を、withコロナにおける実践と課題を含めた形でWEBにて開催した。事前申込者は283名であり、当日は209名が参加した。

- (1) テーマ「withコロナ時代の看護学教育における国際交流・連携の実践と課題」
- (2) 日時：2021年2月20日（土）13:00～15:30
- (3) 方法：Zoomを用いたWEB講演会およびパネルディスカッション（ホスト：JANPU事務局内）
- (4) 意図：超少子高齢社会によって日本の大学の在り方が改めて問われる中で、今後、看護系大学のグローバル化に向けて、どのような方向性を目指せば良いのか、さらにはwithコロナ時代においても、具体的にどのようなことに取り組むべきなのかをディスカッションを通して考えることを目的とする。内容にはwithコロナにおける実践と課題を含める。
- (5) 講師：①橋口暢子氏（九州大学医学部保健学科看護学専攻統合基礎看護学講座 教授）
テーマ：学部教育における国際交流～九州大学の実例～
②岩田真幸氏（慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科看護学専攻 大学院生）
深堀浩樹氏（慶應義塾大学看護医療学部 教授）
テーマ：大学院教育における国際交流～慶應義塾大学の実例～
③謝海棠氏（国際医療福祉大学保健医療学部看護学科 准教授）
テーマ：海外留学生の教育における国際交流～国際医療福祉大学の実例～
- (6) パネルディスカッションの様子（写真）



※上段左から、志田京子氏（本委員会委員・座長）、橋口暢子氏（講演者）、深堀浩樹氏（講演者）、
下段左から、謝海棠氏（講演者）、岩田真幸氏（講演者）

(7) 参加人数およびアンケート結果

①参加人数：事前の参加申し込み者数は 283 名であった。

当日の参加人数は、209 名（委員・事務局・講師の合計 14 名を除くと、195 名）であった。

②セミナー後アンケートの結果（google form にて収集）：回答者数 124 名

A. 回答者の属性（n=124）

性別（n=116）	
女性	109(94%)
男性	7(6%)

参加者の年齢（n=116）	
20 歳代以下	2(2%)
30 歳代	10(9%)
40 歳代	41(35%)
50 歳代	47(40%)
60 歳代以上	16(14%)

勤務先・所属先（n=124）	
公立大学	35(28%)
国立大学	27(22%)
私立大学	61(49%)
省庁立	1(1%)

勤務・在学している地域（n=124）			
北海道	1(1%)	近畿	18(15%)
東北	4(3%)	中国	8(6%)
関東	40(32%)	四国	7(6%)
中部	20(16%)	九州・沖縄	26(21%)

職位・身分（n=124）			
学長・学部長・学科長・専攻長	9(7%)	職員	2(2%)
教授（上記以外）	26(21%)	大学院生	5(4%)
准教授・講師	60(48%)	学部生	2(2%)
助教・助手	20(16%)		—

B. セミナーの内容に対する評価（n=124）、およびその内容（n=88）

講演について	
とても役に立った	70(57%)
まあまあ役に立った	51(41%)
あまり役に立たなかった	3(2%)

パネルディスカッションについて	
とても役に立った	48(39%)
まあまあ役に立った	68(55%)
あまり役に立たなかった	6(5%)
全く役に立たなかった	2(1%)

学部教育における国際交流に関して

学部の国際交流プログラムの具体的内容

学生の海外研修を進めるうえで、大学・学部としてのシステム作りに役立つ（危機管理体制・研修、遠隔交流、国際フォーラム、教員の巻き込み方・参加方法、等）

大学院教育における国際交流に関して

大学院生の交流・留学について具体的な情報を得られた（事前準備、経済的負担、実際の活動）

院生の育て方、バックにある大学としての方針決定・手立て準備の必要性

国外大学を巻き込んだ研究力強化

教員個人の研究を通じた人脈作りの必要性

大学院レベルでの国際交流では、やはりがベースになっていると感じ、改めて語学力や研究力が問われるのではないかと考えさせられた
海外留学生の教育における国際交流に関して
留学生教育について看護分野の状況が具体的に理解できた(受け入れ時の工夫、学修支援、ニーズへの対応、ロールモデルの必要性、等)
現状の留学生教育について自己評価に役立った
日本へ留学する学生のニーズや思考がわかり対応の参考とできる
COVID-19 禍/オンラインでの国際交流に関して
COVID-19 感染拡大状況での国際交流をどのように進めるかが具体的にわかった(オンライン時の工夫、メリット・デメリット、運営方法、等)
全体に関して
学部、大学院、留学生と多角的に国際交流のことを知ることができた
他大学の実情を知り、国際交流の意味と課題とを考えることができた

C. 研修会を通して看護学教育のグローバル化に向けた目標や方策として考えるところ (n=71)

大学院での国際教育
大学院教育での国際交流の推進
大学院教育において外国人教員を増やすための対策検討
留学生対応
留学生支援の基本について教員間で共通理解するためのパンフレット作成や、異文化紹介講義の実施、伝達講習、等
留学生(院生)へのサポートに対する視点を変えていくこと
留学生受け入れ・学修支援整備
留学生派遣・受け入れに対しての危機管理体制の確立、学生が留学生を支援するシステム作り
目標の明確化
国際交流・連携に対する大学としての具体的な方向性・目標を明確にすること
単なる語学研修にはいけない
学生の主体性を引き出し交流を本当に意味のあるものにする為の方法を考える必要がある
体制づくり
他の教員も巻き込んだ国際交流
国際交流委員会の体制を整備
国際交流に伴う危機管理のハンドブック作成と研修
教員間の情報共有、認識・意識づくり
教員全員が関わるという意識を持つように取り組む
学部の教員や経営者の意識改革・FD
自大学の留学・国際交流制度に関する情報収集
海外の大学との連携について、今回の情報を学内の国際交流委員会の中で共有する
ジェンダー問題等、国際感覚的なことに関心を持って感覚を磨く
海外の大学教員の招聘と交流のきっかけづくり
英語教育・教員の語学力/留学
教員の英語力を上げること(全教員に標準的な英語の語学力基準を課す、ネットアカデミーの利用、等)
学生の英語教育の見直し

若手教員の留学支援
大学を超えた留学支援システム
他文化理解を促進する教育プログラムの検討
英語論文への投稿努力
国際交流が国際共同研究に発展できるよう取り組みたい
COVID-19 禍/オンラインでの国際交流
オンラインでの海外研修プログラムの立案
海外(協定先大学等)とのリモートセッションを定期的にもつ
海外の看護系大学の研究者と共同研究ができるように、オンラインで交流
コロナ禍だからこそその国際交流のありかた検討
当面は地元でできる異文化理解教育の充実

D. セミナー開催に対する評価 (n=124)

2月の開催		休日の開催		午後の開催	
とても良かった	61(49%)	とても良かった	52(42%)	とても良かった	67(54%)
まあまあ良かった	60(48%)	まあまあ良かった	55(44%)	まあまあ良かった	52(42%)
あまり良くなかった	2(2%)	あまり良くなかった	15(12%)	あまり良くなかった	4(3%)
全く良くなかった	1(1%)	全く良くなかった	2(2%)	全く良くなかった	1(1%)

開催時間の長さ(2時間 30分)		オンラインでの開催	
とても良かった	36(29%)	とても良かった	107(86%)
まあまあ良かった	63(51%)	まあまあ良かった	17(14%)
あまり良くなかった	24(19%)		
全く良くなかった	1(1%)		

E. 大学のグローバル化に向けて、今後開催してほしい企画や企画時期 (n=49)

オンラインでの国際交流を確立・促進することに関する内容
コロナ禍におけるグローバル化について
国際交流における危機管理体制の確立に向けて
少子化や地域創生とグローバル化に関するセミナー
教員の国際交流促進のための支援に関する研修会企画
資金調達、インバウンドの際の費用
大学規模を特定した取り組みの情報共有(小規模、単科、私学、新設、等)
グローバル化に先進的な海外の大学の取り組みや意見交換の場
国際交流による研究の発展、共同研究の進め方
英語論文の発表や投稿に関する内容
看護系教員の留学を可能にするノウハウ
学部生の長期留学の実際と方法、成果
学生が参加できる国際オンラインセミナー
国際看護経験ある教員の人材活用
留学生受け入れの体制づくり
国内大学での共同国際交流プログラムの紹介
看護の学科長等を対象としたグローバル化の重要性と方法に関する研修
国際交流担当者のネットワーク構築

院生同士が自由につながるプラットフォームの構築
リアルタイムで相談ができる場があるとよい
国際看護・国際保健、災害看護・災害保健の教育内容や方法
より具体的な活動内容について共有したい、意見交換をしたい、等

(8) 活動評価

- ・参加者へのアンケートでは、講演およびパネルディスカッションについて、とても/まあまあ役に立ったという回答が 98%と 94%を占めていた。役に立った内容としては、学部教育/大学院教育/留学生教育のいずれに対しても、他大学の状況がわかった、活動内容や工夫が参考になった、自大学の課題がわかったという記載があった。また、開催時期や方法については肯定的な意見が多く、特にオンラインでの開催に対してはほぼ 100%がよいと回答していた。今後期待する企画としては、今回のテーマの継続とともに、海外研究者との共同研究やオンラインセミナーの開催方法等、多様なニーズが記されていた。
- ・研修会により COVID-19 感染拡大状況にあっても多くの会員/会員校が教育と研究に関する国際交流を継続・発展させようとしていることがわかり、これを促進・支援するため引き続き研修会等を企画していくことの必要性が示唆された。また、With/After コロナにおいて ICT を用いた新たな交流の在り方を検討することができるような支援が求められていると考えられた。

4. 今後の課題

EAFONS 第 25 回大会（台湾）への参加支援を行うとともに、第 26 回 EAFONS（2023 年開催）は日本が開催予定であるため、Executive Committee や 25 回大会と連携しながら 2021 年度より準備に着手する。また、With/After コロナにおける看護系大学のグローバル化に貢献する研修会等を企画し実施することが課題である。